

R18
Adult only

赤緒の敗北







人質を取られたために、武器を捨てた赤緒。
あっさり敵の男に背後から取り押さえられ、
その周囲を無数の男たちが囲む。

「ったく、手間取らせやがって」

「このデカパイ女どーするよ」

男たちは下卑た笑みを浮かべ、
赤緒の女体を舐めるように見下ろす。
特に巫女服の上からでも、
その豊満さがわかる乳房は彼らの気を引いた。

「……っ」

赤緒は視線をただ無抵抗で受けた。
屈強な男たちの力に抗えないのもあったが……。

「妙な真似したら、人質ぶっ殺すからな」

人質のために無抵抗を貫くしかなかった。
たとえこれから犯されるとわかっていても――。

「しかし、デケー乳してんなあ」

「おっぱい強調する服着て、誘ってんのか？」

服の上からぐにぐにと、
男たちに胸を揉みしだかれる。

「そ、そんなつもりで着てませんっ！」

予想はしていたとはいえ、
男慣れしていない赤緒は赤面する。
それを察した男たちは、より興奮するのだった。

ムギ

「オラッ、乳見せろや！」

先ほどまで赤緒の胸を弄んでいた男が、勢いよく巫女服を引き裂く。

「きゃああッ!？」

ぶるん、と白く豊かな乳房が、男たちの前に晒される。
恥じらいと驚きに赤緒は悲鳴をあげた。

その赤緒の無様な姿は、男たちの肉棒をいきり立たせた。



「すっげ、何食ったらこんな爆乳になんだよ」

男たちに好き勝手なことを言われながら、
乳首を晒し、たぶたぶと巨乳を弄ばれる。

「っ……！」

時たま、男の指が食い込み、
その痛みに赤緒はビクッと反応しながらも耐えた。

(私が声を上げたら、この人たちを喜ばせるだけ……)
(きっと助けが来る！それまで耐えなきゃ……！)

好きでもない男達の前で痴態を晒す。
その恥じらいと乱暴な愛撫に耐える赤緒の姿を見て、
男たちはげげら笑う。

「ははっ、いっちょ前に声をこらえてやんの」
「徹底的にブチ犯してやるぜ」

乳首を引っ張ったりと愛撫はエスカレートするが、
赤緒は仲間を信じて、必死に耐えるのだった。



「あぐ、ああああっ！」

だが仲間の助けは来なかった。
赤緒は散々体を触られた後、男たちに地面に押さえつけられた。

「どうだあ初めてのチンポはよお！」

そして容赦なく処女を奪われ、肉棒に何度も突き上げられた。

「あんっ、ああああっ！」

処女を散らした痛み。
激しい男のピストン運動は痛みを悶える間もくれず、
赤緒に声だけしか上げさせない。

「はははっ！ よすぎて何も言えねえか！」
「そら！ もっと声上げろや！」

男の挿入行為がさらに激しくなる。

「あんっ、はっ、やああああっ！」

深く刺さったペニスから逃れようと身をよじる。
赤緒のその行為を他の男たちが許さない。
赤緒は地面に押さえつけられ、ただレイプされる。

「ははっ、こんなエロい女滅多にいねえ！」
「飽きるまで犯してえぜ。早く変われよ！」
「ああ、俺も引き上げる前に一発ヤリてえ」

口々に好き勝手言う周囲の男たち。

「うるせえな！ まずは俺からって話だろーが」
「すぐ種付けすっから！ 黙って見てろ！」

射精に至ろうと、男の腰が更に早さを増す。

「あううッ！？」

赤緒の体が跳ね上がり、乳房が揺れる。
男達はそれを見て、下卑た笑みを浮かべるのだった。



「オラッ！孕めや！！」

「いや、やめっ、いやあああああ！！」

奥深くまで突き刺した肉棒から精液が注がれる。

どくんどくとペニスは脈打ち、
赤緒の子宮内はあっという間に精液で満たされる。

その勢いは凄まじく、
赤緒の股から溢れ出すほどだった。

「ふうー、最高だったぜ赤緒ちゃん」

おっぱいを揉みしだきながら、
男が満足げにペニスを引き抜く。

「……っ」

赤緒は涙をこらえながら、顔をそらす。
それを見た男はけたけたと笑う。

「嫌な顔するなよ」

「お楽しみはこれからなんだかさあ」

そう言って男が離れると、
別の男が赤緒に覆いかぶさる。

「いやっ、来ないで！」

赤緒の拒絶をよそに男はペニスを握りしめる。
男たちによる輪姦はまだまだ続くのだ。

